

論題	朝倉能登守夫人墓石造宝篋印塔の造立年代について
著者	斎藤彦司
掲載誌	神奈川県立博物館研究報告—人文科学— (神奈川県立博物館研究報告) 第2号
ISSN	0910-9730
刊行年月	1969年(昭和44年)3月
判型	JIS-B5 (182mm × 257mm)

朝倉能登守夫人墓石造宝篋印塔の

法誉良心大姪

實業造立年代について(表題圖10)

韓爲前登守。元人墓石道三饋田塘。大定志。寶水寺碑。二十六二〇年。《宋史圖書》。

横須賀市追浜南町にある良心寺には、朝倉能登守夫人の塔とい
う石造の墓塔がある。上り坂の頂上に位置する。塔の正面は、

にある鐘楼の裏から山道を登った中腹に立っている。良心寺にこの

墓のあることは、古くから知られており、「新編相模国風土記稿」

いの言事がある。

十二日に卒す。法名を大悲院法譽良心と号す。寺院号は即是。

をとりて名づく。境内に墓あり。

また、最近では、「一橋須賀の文化財」や「一橋須賀鉢巻」に紹介されている。山中殿によると、重音の同姓の常陸の朝入道（あさひのとう）が、この宝鏡印塔は、基礎の正面に、王跡殿主北条内蔵（くわじのうちざか）とある。当寺建立の開基（かいき）である。とある。大虫主（おほのむすめ）である。

大悲院殿 すれど さへての間も暮延き惜て関東進去であるは

法
譽
良
心
大
姉

朝倉能登守與

と銘文が刻まれているが、年号は能登守夫人の没年月日を記したので、この塔がその直後に造立されたものとしては、宝篋印塔の形式から見ると疑問がある。そこで、同じ形式を持つ他の宝篋印塔比較、検討することにした。文殊院、華嚴院（一三一〇年）（大略図）

地志⁽³⁾、良心寺の開基が朝倉能登守であることが書かれているし、

前項に記した能登守夫人の墓の銘文からも知ることができる。

と、未年六月十一日に出された朝倉右馬助の寺領寄進状が所蔵さ

ている。これが、一例もつて難易誤解未十三中都式書字法である。

朝倉氏は小田原北条氏の家臣で、小田原衆所領役帳にはよ
り、玉幡衆に属し、良心寺のある三浦郡浦郡その地に、三百九十五

貫三百四十文の領地を持つ武将であつた。⁽⁵⁾

この朝倉氏のなかで、能登守を名乗った人物には、次の三人を

げることが出来る。

- 一、北条氏綱の時代に活躍し、弓馬の達人であった犬也入道。⁽⁶⁾
 二、豊臣秀吉の小田原攻めの際、玉繩城主北条氏勝に従つて箱根山中城にたてこもった重信。同城の落城の時入道して犬也。⁽⁷⁾
 三、北条氏の没落の後、結城中納言秀康に仕えた景隆。後入道して犬也。⁽⁸⁾

しかし、いずれも入道して犬也と称している点に疑問があり、どの能登守が良心寺に夫人の墓がある人物に当たるのかは、今後の検討が必要である。

3.

良心寺の朝倉能登守夫人墓塔に近い形式を持つ宝篋印塔を、三浦半島で搜すと、次の例がある。

横須賀市	盛福寺	元和八年塔（一六二一年）（実測図7）
横須賀市	安養院	元和九年塔（一六二三年）（実測図3） ⁽⁹⁾
鎌倉市	盛福寺	寛永元年塔（一六二四年）（実測図5）
横須賀市	大宝寺	寛永二年塔（一六二五年）（実測図6）
鎌倉市	安養院	寛永三年塔（一六二六年）（実測図10）
鎌倉市	大宝寺	寛永七年塔（一六三〇年）（実測図11）
横須賀市	自得寺	寛永九年塔（一六三三年）（実測図12）
逗子市	海宝院	寛永十三年塔（一六三六年）（実測図13）

横須賀市 塚山公園 三浦按針墓塔 （実測図4）
 横須賀市 盛福寺 年代不明塔 （実測図9）
 以上のように、記年銘のある塔はすべて、江戸時代初期の年号を持つている。なお、寛永十年以降の塔は、数多く見ることができるが、ここでは、一例として海宝院寛永十三年塔だけをあげておいた。

4.

前項であげた十基の宝篋印塔によつて、江戸時代初期の宝篋印塔の特徴を各部分に分けて述べて行くが、中世の関東形式及び関西形式の塔とも関係があるので、両形式の参考資料として、次の二基をあげておく。

川勝政太郎「石造美術入門」所載の関西形式塔（実測図1）

鎌倉市 坂間氏蔵 文保元年塔（一三一七年）（実測図2）

〔基壇〕 基壇は中世の関東形式の塔ではすべての塔にあり、宝篋印塔の一部分になつてゐる。上部は反花座を作り、側面は輪郭を巻き中央に束を立てて二区に分け、その内部には格狭間を現わす塔がある。関西形式の塔では、基壇のある塔とない塔があり、上部は反花座を作るが、側面は無地のままで、関東形式の基壇と比較してその厚味が少ない。

江戸初期の塔では、すべての塔が基壇を持つ関東形式であるが、

その形は上部が反花座で側面が無地の関西形式が多い。三浦按針墓塔だけが関東形式の側面を二区に分けた基壇を持っている。反花座は、すべての塔が一つの側面の中央に一弁と左右に各一弁があり、左右の弁は他の側面の左右の弁を兼ねているので、全体で八弁で反花座を構成している。しかし、花弁の表現には差があり、はつきりとした反花を持つ塔は、

盛福寺元和八年塔・盛福寺寛永元年塔・三浦按針墓塔

の三基で、

大宝寺寛永二年塔・安養院寛永三年塔・盛福寺年代不明塔の三基では、やや簡単な反花になっていて、

大宝寺寛永七年塔・自得寺寛永九年塔・海宝院寛永十三年塔の三基では、更に簡略化された反花の表現が行なわれている。

〔基礎〕 中世の関東形式の塔では、上部を二段の段型とし、側面は基壇と同様輪郭を卷いて二区に分けている。関西形式の塔では、上部を反花にする塔と二段の段型にする塔があり、側面も輪郭を巻き一区にする塔と輪郭を巻かない塔がある。また、関西形式の塔では、格狭間を表現する場合は基礎に行なっている。

江戸初期の塔のうち、安養院元和九年塔は上部が二段の段型で側面を輪郭で二区に分ける関東形式を示しているが、他の塔は、上部が反花座で側面に輪郭を巻くが一区の関西形式がほとんどで、盛福寺年代不明塔だけは側面に輪郭を巻かない。ただ、基礎に格狭間を行なっている。

表現した塔はない。また、反花座については、基壇で行なった分類と同じことが言えるが、自得寺寛永九年塔では、湾曲した面に沈線で反花を描いた最も簡単な表現をしている。

〔塔身〕 中世の関東形式の塔は輪郭を巻くが、関西形式の塔では輪郭を巻かない。

江戸初期の塔のうち、関西形式を示す塔には、

盛福寺元和八年塔・盛福寺年代不明塔

の二基があり、蓮座や月輪を陰刻している。その他の塔は輪郭を巻く関東形式を示している。また、中世の塔では側面が正方形もしくはそれに近い形をしているのに対し、江戸初期の塔では、新しい年代の塔で高さが巾に較べて高い塔が現われている。

〔笠〕 中世の関東形式の塔は、下部の段型が二段で、上部の段型が七段又は五段で、最上部の段型には輪郭を卷いて二区に分け露盤を表現する塔がある。隅飾突起は二弧で輪郭を卷いている。関西形式の塔では、下部の段型が二段で、上部の段型が六段で最上部に露盤の表現はしない。隅飾突起は二弧又は三弧で輪郭は巻く塔と巻かない塔がある。

江戸初期の塔では、下部の段型はすべて二段であるが、上部の段型は、

七段 安養院元和九年塔

六段 盛福寺元和八年塔・盛福寺寛永元年塔・大宝寺寛永二年

表事例不^由塔・安養院寛永三年塔・三浦按針墓塔・盛福寺年代不明塔
五段・大宝寺寛永七年塔・自得寺寛永九年塔・海宝院寛永十三
面^ミ輪^ミ年塔^ミ二^ミ食^ミ二^ミ關東^ミ源^ミ失^ミ示^ミ二^ミ心^ミ、^ミ此^ミ道^ミ、^ミ土^ミ道^ミ
の三種類があり、年代が下るに従つて段数が少なくなることを示し
ている。問^ミ支^ミ風^ミする^ミ合^ミ基^ミ對^ミ行^ミな^ミ。

隅飾突起は、中世の塔に比較して、上に行くほど外に開く形をし
て^ミいるが、すべての塔が輪郭を巻く関東形式である。また、安養院
元和九年塔は三弧で最下の弧は変形し、上部段型最下段の装飾化し
て^ミいるが、その他の塔は二弧で、下の弧は安養院元和九年塔と同様
装飾化している。なお、海宝院寛永十三年塔では、弧と弧の間の茨
部が渦巻となつて隅飾突起の内部装飾になつて^ミいる。^{十三年塔}
○〔伏鉢〕中世の両形式では、高さの低い伏鉢であるのに対し、江
戸初期の塔では巾と高さが同じに近い高い伏鉢になつて^ミいる。更
に、海宝院寛永十三年塔では、伏鉢の上部から四方に蓮弁をさげ
て、本来の伏鉢の意味を失つた装飾化が行なわれて^ミいる。

○〔請花〕請花は九輪をはさんで上下に二個作られているが、中世
の塔に較べて江戸初期の請花は形式的になつて^ミいる。すなわち、江
戸初期の塔では、下部の狭い部分から急に巾が広がり、途中から上
までは同じ太さの単純な形になり、海宝院寛永十三年塔では、下か
ら上に向かつて広がつた新しい形をして^ミいる。なお、大宝寺寛永二
年塔では伏鉢の上の請花の表現を省略して^ミいる。^{二年塔}

〔九輪〕中世の両形式の九輪は上部のやや細い円筒に一定の深さ
と巾を持った沈線で正確に表現されて^ミいるが、江戸初期の塔は、ド
ーナツを積み上げた形で獨得な九輪の表現をして^ミいる。ただし、大
宝寺寛永二年塔は、沈線だけで簡単に現わして^ミいる。^{二年塔}
また、輪の数についても、

九輪・盛福寺寛永元年塔・三浦按針墓塔^ミ神^ミ源^ミ失^ミ示^ミ心^ミ
七輪・大宝寺寛永三年塔^ミ、^ミ土^ミ道^ミ、^ミ輪^ミ、^ミ輪^ミ、^ミ輪^ミ、^ミ輪^ミ、^ミ輪^ミ
六輪・盛福寺元和八年塔・盛福寺年代不明塔^ミアリ。関西^ミ
五輪・安養院寛永三年塔^ミ、^ミ輪^ミ、^ミ輪^ミ、^ミ輪^ミ、^ミ輪^ミ
四輪・大宝寺寛永七年塔・自得寺寛永九年塔・海宝院寛永十三
年塔^ミ、^ミ輪^ミ、^ミ輪^ミ、^ミ輪^ミ、^ミ輪^ミ

と、年代が下るに従つて輪数が少なくなる傾向を示して^ミいる。^平
〔宝珠〕中世の二形式の塔が、いわゆる疑宝珠の形をして^ミいるの
に対し、江戸初期の塔では頂部が非常に発達し、大きな三角帽子を
のせた形になつて^ミいるが、ほとんどの塔で三角帽子の上部を欠失し
てしまつて^ミいる。たゞ、盛福寺寛永元年塔の頂部は上がまるみを持
つた円筒形で高さは低い。また、自得寺寛永九年塔と三浦按針墓塔
とは、頂部が完全に欠失して^ミいて、その形を知ることはできない。
以上述べて來たように、江戸初期の宝篋印塔は、中世の関東形式
及び関西形式の両者の特徴を、各部分にわたつて受け入れ、更に
ある部分では簡略化を行ない、また、別の部分では装飾化を行ない

ながら、次第に江戸時代独特の形式を作りあげていった。その変化の過程の中でも、今回とり上げた塔を、古い形式の塔から列挙していくと、『一関八帖古跡』『北条家軍籍宝山中殿守貞連』又む、『土武義安・一井安養院元和九年塔』『一井正介・火出人道毛里豊の塔』の順である。

二、三浦按針墓塔

三、盛福寺寛永元年塔

四、盛福寺元和八年塔

五、盛福寺年代不明塔

六、安養院寛永三年塔

七、大宝寺寛永七年塔

八、自得寺寛永九年塔

九、海宝院寛永十三年塔

の順になり、墓塔に刻まれている年号の順とほぼ一致する。ただ、盛福寺元和八年塔が年号の割に新しい形をしているが、一井がら四までわざが三年の開きがないし、形式の変化が二年ごとに正確に現われるものではないと思う。また、大宝寺寛永二年塔は相輪の形が異なるが、その他の部分は、五か六の位置を示すもので、同じ時期に別形式として存在していたといえる。

一、元和末半の致延三年までの間に建立されたものとされる。

五、15
左の塔の輪郭を示す。『大宝寺寛永二年塔』の原版である。良心寺にある朝倉能登守夫人墓の宝篋印塔の特徴を、前項で記し

た江戸初期の塔の特徴に、各部分に分けてその順位を当てはめて行くと、

二と四と同じである。

基礎側面は輪郭を巻くが一区で、二と九と同じである。

塔身は輪郭を巻かず月輪と蓮座を刻んでいて、四、五と同じである。

笠の部の上段型の段数は六段で、二と六と同じである。

隅飾突起は輪郭を巻く二弧で下の弧が装飾化されていて、二と八と同じである。

伏鉢は無地で高さと巾が同じくらいある伏鉢で、二と八と同じである。

請花は下部が急に巾が広くなり、途中から上までが同じ太さで、九輪はドーナツ形を積み上げた形で六輪を現わし、四、五と同じである。

宝珠は頂部がほとんど欠失しているが、残った部分から見ると三角帽子で、四と九と同じである。

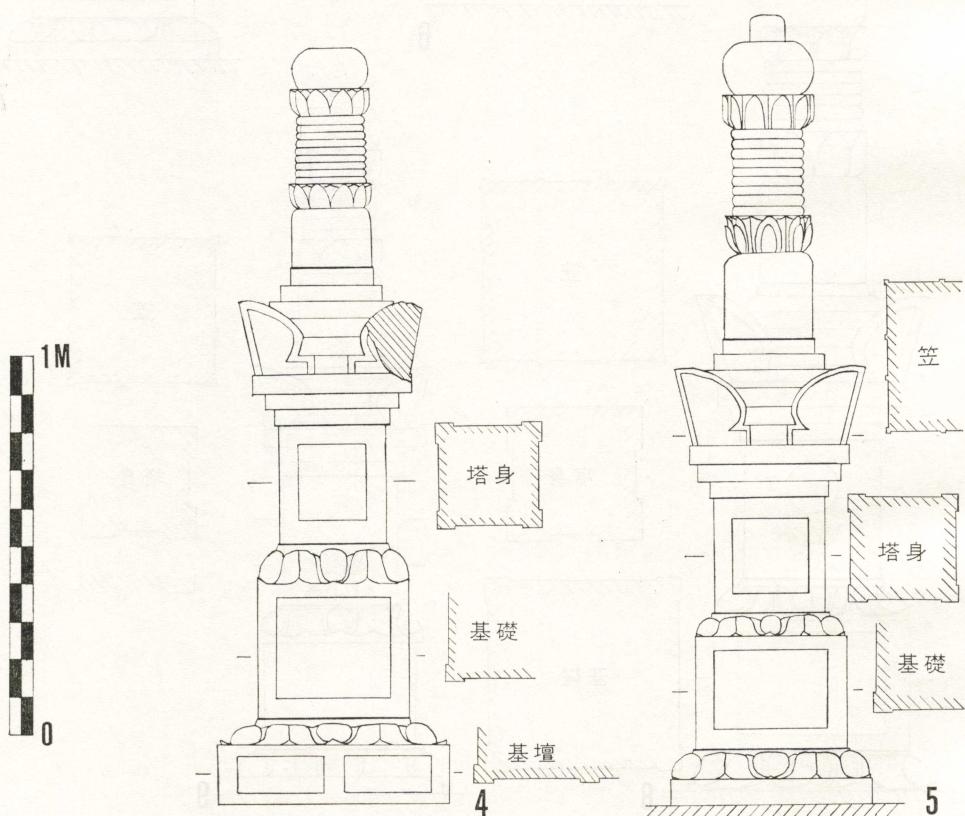
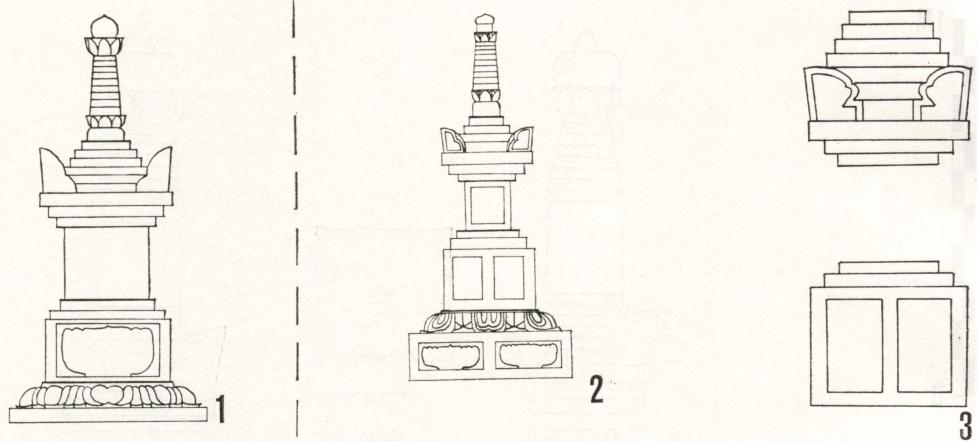
以上の点から能登守夫人墓塔は、すべての点で、江戸初期の塔と同じ特徴を持ち、特に四の盛福寺元和八年塔に近い形をしている。

ただ、前項で記した通り、この塔が記年よりやや新しい順位になつ

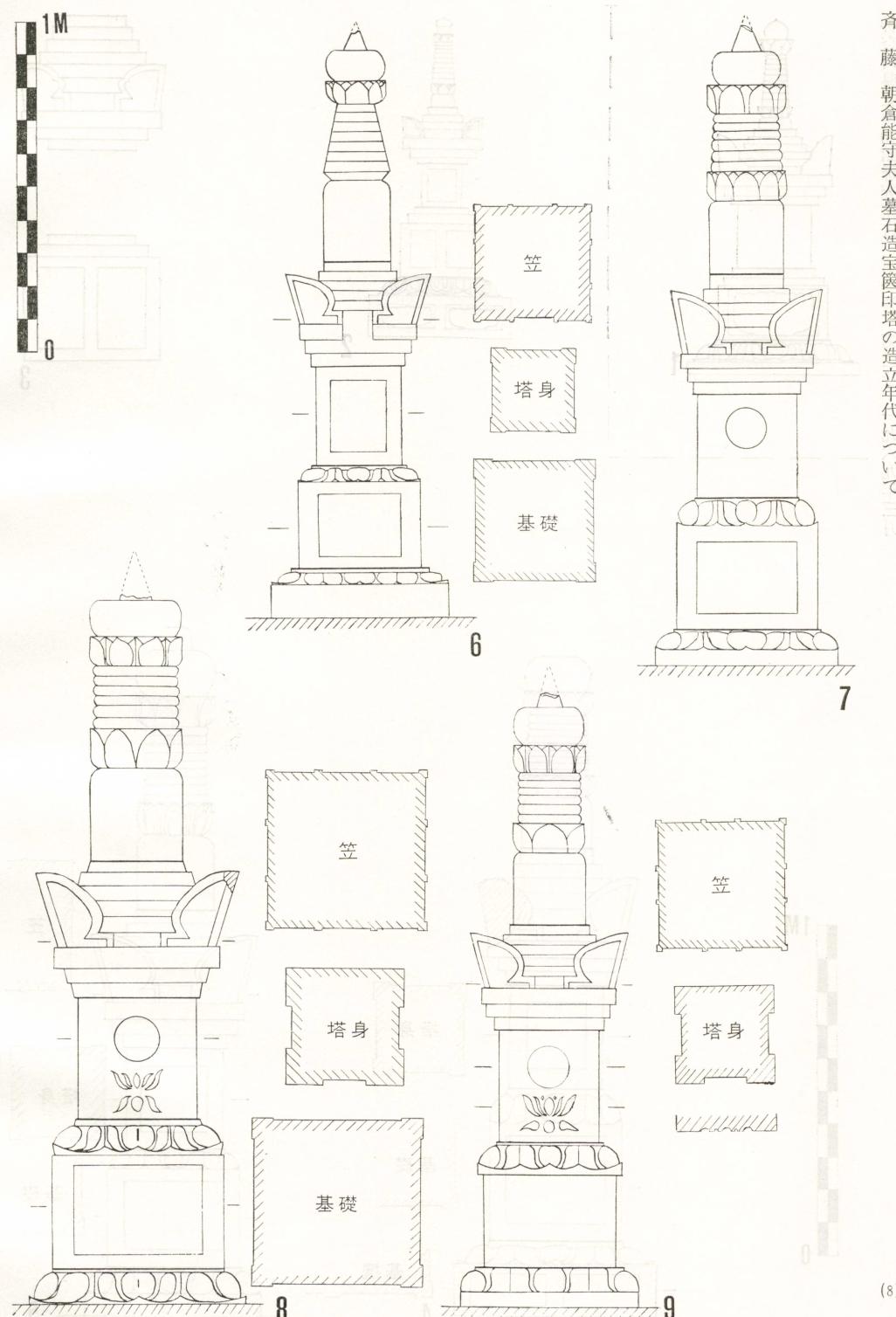
ているため、少し拡大して考えると、安養院寛永三年塔より古い形式を多くの部分で示し、安養院元和九年塔より新しい形式であるので、元和末年から寛永三年までの間に造立されたものと考える。

註

- 1 「横須賀の文化財」（横須賀市教育委員会編 昭和四十三年）と「横須賀雑考」（横須賀文化協会編 昭和四十三年）とは同一記載。
- 2 「横須賀の文化財」及び「横須賀雑考」では、銘の位置を裏としているが現在は正面にある。また、「大旦主」を「大具主」「六月十一日」を「賀十一月」と記しているが、筆者の所見では、「大旦主」「六月十一日」と認められた。
- 3 「新編相模国風土記稿」・「三浦古尋録」・「相中留恩記略」による。
- 4 岩崎義朗「相模国三浦半島の古文書について(四)」（横須賀市博物館研究報告 人文科学 第七号 昭和三十八年）
- 5 「続群書類從」では「朝倉」を「牧倉」「浦郷」を「浦江」としているが、北条雋八氏所蔵の写本では「朝倉」「浦郷」になっている。
- 6 「北条五代記」「大也入道弓馬に達者の事」の項による。
- 7 「関八州古戦録」「北条家軍評定付山中城守兵事」及び、『上方勢攻落山中城事』の項による。
- 8 「新編相模国風土記稿」による。
- 9 現存するのは、基壇・基礎・笠のみであるが、基壇は別のもの。



1. 中世の関西形式例(川勝政太郎「石造美術入門」所載)
 2. 中世の関東形式例(鎌倉市 坂間氏蔵 文保元年塔)
 3. 鎌倉市安養院 元和九年塔
 4. 横須賀市塚山公園 三浦按針墓塔
 5. 横須賀市盛福寺 寛永元年塔

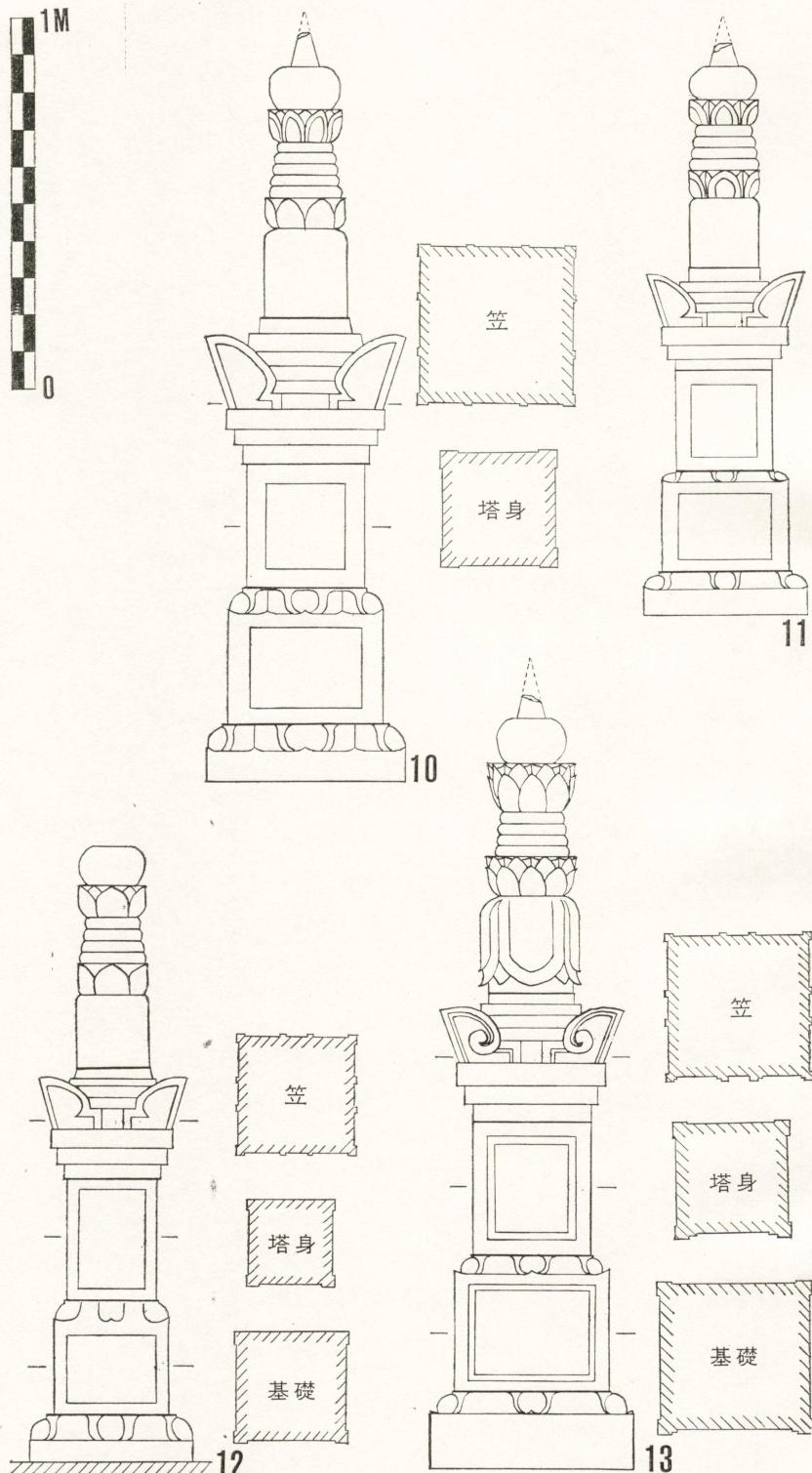


6. 鎌倉市大宝寺 寛永二年塔

8. 横須賀市良心寺 朝倉能登守夫人墓塔

7. 横須賀市盛福寺 元和八年塔

9. 横須賀市盛福寺 年代不明塔



10. 鎌倉市安養院 寛永三年塔
12. 横須賀市自得寺 寛永九年塔

11. 鎌倉市大宝寺 寛永七年塔
13. 逗子市海宝院 寛永十三年塔